尾張旭市立東中学校　３年C組　学級通信

Courage

期末テ１日目！
卒業まで、あと61日！

第123号　平成28年11月22日

★ がん教育講演会

講演会の最後に「**♪生きている間　すべて遠回り　すべて大回り　なのにそれなのに　近道をさがして･･･**」RADWIMPSの曲「ＤＡＤＡ」の歌詞を引用しながら、「支えられる側」になったとき、生きる意味をどのように考えるとよいか？という質問が３Ｃの生徒から出ました。

８００人近い生徒が聞いている中で質問することは、大変勇気がいることだと思います。そんな勇気を出して聞いた質問に、講師の樋野（ひの）先生は次のように答えていました。

どんな場合でも(たとえどんな病気でも、どんなに短い人生であっても)、生きている限りは一人ひとりに役割がある。大事なことは、それに気づけるかどうかです。

また、人は「苦しみながらがんばる姿」に感動します。例えば余命告知を受け、体調があまりよくない。にもかかわらず笑顔で話をされる方がいます。歩くこともままならない、にもかかわらず遠方から何時間もかけて面談にきてくださる方もいます。

そうした方たちを前にすると身が引き締まる思いがします。日々、自分が感じている嫌なことやつらいことなどどうでもよくなってきます。自分がまだまだ未熟な人間だと思い知らされ、謙虚な姿勢を学ぶことができるのです。

このように、自分がいま苦しい状況にあるとき、それにもかかわらず笑うこと。笑うことで悩める人を慰めることもできるのではないでしょうか。

そして、「人に譲るだけ譲る」ことも大切です。そうすれば、「暇＝日間」もできるのです。私の場合、人ができる仕事は相手の事情が許す限り譲るようにしています。譲るだけ譲ると暇ができて、自分にとって本当に大切なものだけが残ります。つまり、人を助ける力も必要だが、人に助けを求める力も必要なのです。そうやって、自分の役割を、どのようなときも(病気になったときにも)見つめてみてください。

思えば、中学生にとって、今「生きていること」は当たり前のことすぎていて、自分が今「健康であること(風邪をひくとかではなく、大病を患っているレベルではなく、の意味で)」も当たり前のことすぎています。今回の講演では普段「支える側」だった自分が、もし「支えられる側」になったら、という逆転の発想をさせてもらえる貴重な時間になったのではないでしょうか。

今、みんなは目の前の進路に向かって努力を続けています。この努力する時間は絶対に必要なものです。このまま迷わず続けてください。そのうえで、ときどき、「死」までを見通した自分の「生き方」を「一人で」考えてみてください。そんな時間が、自分を成長させてくれたり、人に優しくできる力をくれたりするのだと、今日の講演で感じました。

11月24日(木)の予定　※期末テスト

１限　社会テスト　２限　英語テスト　３限　体育テスト

連 絡：〇提出物、忘れないこと。

宿 題：〇計画表はテスト後に集めます。
〇日記はテストまでは自由提出とします。

講師：樋野興夫（ひの　おきお）先生
順天堂大学医学部教授　がん哲学外来理事長
・『明日この世を去るとしても、今日の花に水をあげなさい』幻冬舎・2015
・『「今日」という日の花を摘む』実業之日本社・2016　等、多数の著作